



Social
Bank
Community

Annual Report

ソーシャルバンク・コミュニティ
2024年度 年次報告書



2024-2025

ソーシャル
バンカーを
勇気づける。

ごあいさつ

地域金融機関における「組織的」「継続的」ソーシャルビジネス支援の定着に向けて、何ができるのか――

そんな問いから始まった対話が少しずつ広がって、昨年、ソーシャルバンク・コミュニティ(SBC)は発足しました。規模も地域も異なる金融機関の職員が集い、それぞれの実践や悩みを持ち寄る中で、「ともに考え、ともに進む」仲間ができたことを心からうれしく思っています。

SBC発足後、オンラインを中心に定期的な意見交換を重ねながら、各金融機関の事例紹介や情報共有を行ってきました。現場の工夫や挑戦に触れる度に、地域金融機関とソーシャルビジネスとの関係には、まだまだ大きな可能性があることを実感しています。そして何より、同じ志を抱く仲間と出会えたことが、私たちの歩みの大きな力になりました。

この度、初年度の活動の区切りとして初の年次報告書を発行できることをうれしく思います。これをきっかけに、新たな出会いや学びが生まれ、SBCがより開かれたものになっていくことを願っています。今後ともよろしくお願ひします。

2025年7月吉日

ソーシャルバンク・コミュニティ



私たちについて

ソーシャルバンク・コミュニティ(SBC)は、SBC憲章を遵守してソーシャルビジネス支援に挑む金融機関の役職員(ソーシャルバンカー)を勇気づける機会を提供することで、地域金融機関における「組織的(本部・営業店の役職員一人ひとりが)」「継続的(異動や世代交代があっても実践し続ける)」ソーシャルビジネス支援を日本各地に定着させることを目的に、2024年9月に発足しました。

SBC 憲章

SBC 会員である金融機関の役職員が行動する指針となる「SBC 憲章」は、以下の7つで構成されています。

1 金融包摂

社会課題の解決は認知度が低いところから始まることを認識し、ソーシャルビジネス事業者の挑戦に感謝し、決して排除しない

2 関係構築

社会課題の解決は時間がかかることを認識し、ソーシャルビジネス事業者との対話を重ね、長期的な関係を構築する

3 借物協創

社会課題の解決はソーシャルビジネス事業者だけで実現できないことを認識し、地域内外の人や組織を巻き込み、事業者に足りない資金や資源をつなぐ

4 人材育成

「組織的」「継続的」ソーシャルビジネス支援の定着に向けて役職員を育成し、交流する

5 情報発信

ソーシャルビジネス支援に関する情報を定期的に発信し、地域金融機関は事業者の相談相手であることを伝える

6 相互扶助

各会員のソーシャルビジネス支援の発展に協力し合う

7 決意実践

上記の実践計画を自ら立て、責任を持って取り組む

Highlight

2024-2025

2024年度ハイライト

2024年9月

SBCの発足：
クラウドファンディングの実施

2023年末に行ったSBC発足を応援する「発起人」を募るクラウドファンディングでは、47都道府県に暮らす338名から総額3,530,000円をご支援いただき、SBCは発足しました。

発起人一覧



2024年11月

発足記念イベントの開催

発足記念イベントを2024年11月20日に東京で開催し、173名の方にお申し込みいただきました。SBCの先行事例であるInstitute for Social Bankingの取締役・ディレクターを務めるChai Locher(カイ・ロツヒャー)さんに、オンラインでご講演いただきました。

2025年1月

ホームページの開設

2025年1月6日にSBCのホームページを開設しました。各種SNS(X、Facebook)やnote(事務局ブログ)でも、活動の様子を日々発信しています。

メディア掲載

『ニッキン』2024年11月20日号

▶▶ ソーシャルバンク・コミュニティ、発足記念イベント開催 社会課題解を後押し

『山陽新聞』2025年2月21日

▶▶ 社会貢献ビジネス支援 玉島など3信金 SBC立ち上げ

『Forbes JAPAN』2025年4月号

▶▶ JPBVソーシャルビジネス支援プログラム「WILL」

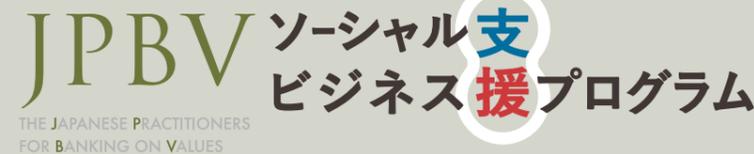
Contents

目次

1
ごあいさつ
SBC憲章2
2024年度ハイライト
目次3
特集
“支援できる人”を育て、
“支援し続ける組織”をつくる
～JPBVソーシャルビジネス
支援プログラム「WILL」への参画～8
2024年度活動報告9
2024年度
SBCパートナー会員による
ソーシャルビジネス
支援事例
コミュニティバンク京信
/ 西武信用金庫 / 玉島信用金庫11
数字で見るSBC12
2024年度決算報告
SBC事務局コラム13
2025年度活動計画14
SBCにかかわるには

“支援できる人”を育て、 “支援し続ける組織”をつくる

～JPBVソーシャルビジネス支援プログラム「WILL」への参画～



主催：一般社団法人価値を大切にできる金融実践者の会（JPBV）ソーシャルビジネス支援分科会
共催：ソーシャルバンク・コミュニティ 協力：認定NPO法人日本ファンドレイジング協会 運営事務局：合同会社めぐる



価値を大切にできる金融を実践し、
社会課題の解決に「本気で」挑む

WILLとは

日本における「価値を大切にできる金融」の普及と実践を目的として2018年12月に設立された「JPBV」に賛同する金融機関等の役員が、仕事で培ったスキルや経験等を生かして、ソーシャルビジネスを半年間応援するプログラムです。役員のみならず（トレーニー）は、NPO等の支援先が次の事業を（高難度の価値の交換である）継続的な寄付で育む戦略を構築するために、WILL協力先のファンドレイザー等と4～5名程度のチームをつくり、定例オンライン会議等を通して「社会を変える」計画を策定し、「志金」調達計画を提案します。

※1:「The Japanese Practitioners for Banking on Values」の略。

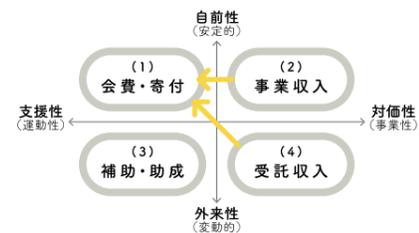
2021年にスタートし、今年で5回目を迎えるJPBVソーシャルビジネス支援プログラム「WILL」。2025年はソーシャルバンク・コミュニティ（SBC）が共催に加わりました。地域金融機関の職員がWILLに参加することは、SBCがめざす「支援できる人」の育成と「支援し続ける組織」づくりに、どのようにつながるのか——。WILLの4年間の軌跡を、インタビュー等を通して振り返ります。

伴走支援1

「社会を変える」計画づくりをサポートする

NPOやソーシャルビジネスの“志金”源には、「(1)会費・寄付」「(2)事業収入」「(3)補助・助成」「(4)受託収入」の4つがあります。しかし、受益者負担の「(2)事業収入」を増やしていくのは容易でないことも多く、税収でまかなわれている「(3)補助・助成」「(4)受託収入」が今後増えることは期待できません。地域の社会課題解決に挑み続けるためには、「(1)会費・寄付」の割合を増やしていく必要があります。

「(2)事業収入」や「(4)受託収入」で事業を育んできたNPOなどの事業者が、次の事業を「(1)会費・寄付」で育むための戦略を構築することが、WILLの役割（右図の矢印）です。そのためWILLでは、地域の社会課題解決に挑むソーシャルビジネスの事業を「社会を変える」手段ととらえ、半年間に及ぶ伴走支援の前半に、事業者の「社会を変える」計画を3つの図にまとめています。



伴走支援スケジュール（前半）

- 1 1か目
 - キックオフ会
 - ▶▶▶ 参加者自己紹介、チームビルディング、今後のスケジュールの確認等
 - 定例会議
 - ▶▶▶ 「社会を変える」計画づくり(1): 「何が問題か?」-「変化の法則」の作成
- 2 2か目
 - 定例会議(月2回)
 - ▶▶▶ 「社会を変える」計画づくり(2): 「誰と解決するか?」-「相関図」の作成
- 3 3か目
 - 定例会議(月2回)
 - ▶▶▶ 「社会を変える」計画づくり(3): 「どう解決するか?」-「ロジックモデル」の作成

① 変化の法則（何が問題か?）

「社会を変える」計画をつくる上でまず整理が必要なのは、「何が問題か?」です。「何が問題か?」を深掘りするには、「誰が困っているか?」を明らかにする必要があります。変化の法則では、問題の根本原因を「バッドサイクル」

として描き、どこにテコを効かせたら解決するのかの「レバレッジポイント」を明らかにした上で、解決につながる「グッドサイクル」を描きます。

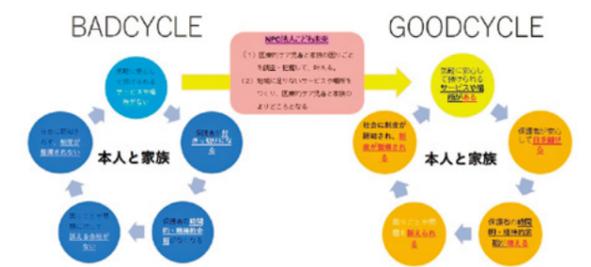


図1: NPO法人子ども未来(WILL2023支援先)の「変化の法則」

重症心身障がい児・医療的ケア児の放課後等デイサービスや訪問看護ステーションを運営するNPO法人子ども未来（京都府京都市）では、当事者とその家族が安心して預けられるサービスや場所がないことで悪循環から抜け出せないことを可視化しました。特に「ショートステイ」はごく一部の方しか利用できないのが現状です。そこで、どんな障がいがあっても安心して利用できるショートステイを立ち上げ、安心して預けられる環境が整うことで、好循環のサイクルに転換するという仮説を、『変化の法則』で描きました。

② 相関図（誰と解決するか?）

「何が問題か?」の次に考えるのは「誰と解決するか?」です。「誰が?」ではなく「誰と?」というのがポイントです。ひとつの組織だけで解決できる社会課題はおそらくありません。地域総動員で挑まないと解決できないなら、困りごとを抱えた当事者を中心に置き、現時点ではどんな支援があるかを描き、どんな支援が足りないかを明らかにするのがねらいです。

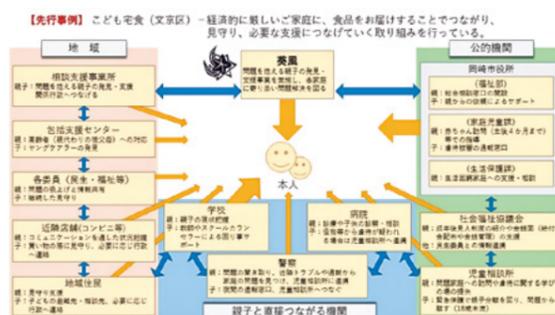


図2: NPO法人葵風(WILL2021支援先)の「相関図」

放課後等デイサービスや緊急支援、子ども食堂、フードバンク等を通じて困難を抱えた親子の問題解決に取り組むNPO法人葵風（愛知県岡崎市）では、
1. 親子と直接かかわりを持つ学校や警察等の機関
2. 市役所・児童相談所等の間接的に当事者の問題を把握する公的機関
3. 相談支援事業所や近隣店舗等の地域全体
という3つの存在を『相関図』で描きました。しかし、個人情報保護の問題等で迅速な状況の把握が難しいことがあります。情報を必要な機関へつなげ、問題解決に向けた各機関の連携窓口の役割が必要であることを可視化しました。

③ ロジックモデル（どう解決するか?）

3つ目は、ここ数年ソーシャルセクターで注目されている『ロジックモデル』です。「何が問題か?」「誰と解決するか?」に続き、「どう解決するか?」というロードマップを示すことができれば、支援者等とのコミュニケーションの引き出しが増えたり、自団体の学びや改善を促すことができます。



図3: NPO法人支援センターあんしん(WILL2024支援先)の『2025年度ロジックモデル』

障がい者の働く場所や重度の方の通所サービス、空き家を活用したグループホーム等を運営し、延べ165名の障がい者の地域生活を支えるNPO法人支援センターあんしん（新潟県十日町市）では、利用者の工賃向上等に日々取り組んでいます。しかし、消滅可能性自治体にも該当する十日町市は、地域の労働力や経済活動が衰退していく一方です。誰もが「あんしん」していきいきと生活できる地域にするために「にもプロジェクト」を立ち上げ、
1. マッチング支援事業
2. あんしんチケット事業
3. 帰る旅事業
の3つの事業を新たにスタートすることを『ロジックモデル』で描きました。

特集：“支援できる人”を育て、“支援し続ける組織”をつくる ～JPBVソーシャルビジネス支援プログラム「WILL」への参画～

Interview 01 >> 支援先

認定NPO法人コクレオの森
〔WILL2021支援先〕



藤田美保さん
認定NPO法人コクレオの森
代表理事

岡本智子さん
認定NPO法人コクレオの森
理事・事務局長



WILL初年度に支援先としてご参加いただいたコクレオの森の藤田さん、岡本さんにインタビューしました。WILLやマンスリーサポーターの存在が、大きな影響を与えていることを伺うことができました。

団体紹介をお願いします。

大阪に新しい学校を創ろうと立ち上がった団体です。文部科学省の認可を受けた学校の設立はハードルが高いため、無認可のオルタナティブスクールを20年以上、大阪府箕面市で運営してきました。東日本大震災前に40数名だった児童・生徒数は、現在70名ほどになっています。

WILLに参加するきっかけを教えてください。

入学を希望する子どもが増えてきたため、私立学校の設立をめざそうとなりました。設立には8,000万円が必要で、その資金を集めるためにWILLに応募しました。当時は廃校を利用するプランが見えてきて、場所も決まりつつあるタイミングで、学校設立に向けた具体的な動きをつくっていくきっかけになったのがWILLでした。

WILLで印象に残っていることは何ですか。

組織を伴走支援してもらうのはWILLが初めてでした。金融機関の人もいて、全然違う視点で組織や事業を見てもらえるのはすごくいい経験でした。

団体内での会話が内向きの言葉＝「コクレオ語」になっていて、それでは外の人に伝わらないことを思い知らされた半年間でした。現在、さまざまなセクターの人と一緒に学校設立に向けて動いていますが、WILLに参加していなければ、外の人に理解してもらえない、もう少し時間がかかったと思います。

WILL参加後の動きを教えてください。

当初予定していた場所での学校設立が難しくなってしまう、改めて廃校を探した結果、猪名川町が見つかり、学校法人あけぼの学園との協働へとつながっていきました。学校を創り出すと対外的に言い始めていたため、当初のプランが難しくなってしまう時、学校設立の旗を降ろすか悩みました。旗を揚げ続ける道を選びましたが、マンスリーサポーターの存在があれば、あきらめていたかもしれません。

現在は2026年4月の開校をめざして動いています。本気の行政は民間の何倍も力があると感じていて、金融機関もきっとそうだと思います。本気で社会を変えたいなら、外の人たちと一緒にやっとならぬといけないことをWILLでの経験から学びました。

Interview 02 >> トレーニー

日本政策金融公庫
〔WILL2021参加金融機関〕



早原 詩津香さん
日本政策金融公庫
国民生活事業本部 創業支援部
ソーシャルビジネス支援グループ
上席グループリーダー代理



2024年度SB支援研修の様子

WILL初年度にトレーニーとしてご参加いただいた日本政策金融公庫の早原さんに、当時を思い出しながら、WILL参加後の取り組みについてもお話いただきました。

自己紹介・団体紹介をお願いします。

政策金融機関である日本政策金融公庫は、ソーシャルビジネス(SB)事業者の方を資金面・情報面から支援しています。私が所属するSB支援グループでは、主にSB事業者の方への資金支援の推進、経営に役立つ情報発信、SB支援の手法を学ぶ社内研修の企画・運営等を行っています。

WILLに参加するきっかけを教えてください。

当時は支店から現在の部署に異動したばかりで、SB支援に関する専門的な知識を身に付けたいと考えていました。そのような中、様々な支援機関の方と一緒にSB事業者の伴走支援が経験できるカリキュラムに惹かれ、WILLに参加しました。自身が担当するSB支援研修の企画に役立てたいとの思いもありました。

WILLで印象に残っていることは何ですか。

SB事業者の方と対話をしながら、一緒に事業計画を策定したり、新たな取り組みを提案したりと、伴走支援のノウハウを実践的に学ぶことができました。SB事業者の方は実現したい

理想がある一方で、それをどのように収益につなげるのかという課題に直面し、「社会性」と「事業性」の両方で悩まれる方も多く感じます。WILLのカリキュラムでは、金融機関の視点から「想い」をどのようにビジネスに落とし込むのかについてSB事業者の方にアドバイスでき、良い経験となりました。

WILLでの経験をその後の業務にどう活かしていますか。

日本公庫のSB支援研修の企画に役立ちました。WILLで学んだ知識を活かし、SBの特徴を踏まえた事業計画策定支援のポイント等を学ぶ実践的な研修を新設しました。この研修には日本公庫職員のほか、民間金融機関の方にも参加いただいております。SB支援への理解を深めることにつなげています。

日本公庫のホームページでは、『社会的企業・NPO向けソーシャルビジネスお役立ち情報』を設け、様々な情報を発信している。→<https://www.jfc.go.jp/n/finance/social/index.html>



Voice
支援先の声



ファンドレイジングの考え方を詳しく教えていただきました。法人の情報を発信する際、知識を持って発信できるようになったため、WILL以前よりも多くの方に法人のことを知っていただけるようになったと感じています。

古澤 由加里さん
NPO法人ひだまり
理事長
〔WILL2022支援先〕

WILLに参加するまでのうりずんには、活動やファンドレイジングを戦略的に計画するノウハウがありませんでした。WILLで学んだ『ロジックモデル』などの具体的な計画づくりは、他の今後の活動にも活かしていきたいです。

我妻 英司さん
認定NPO法人うりずん 事務局長
〔WILL2023支援先〕

社会とのつながり方や意識を獲得することができ、事業や課題を整理する思考が体系化されました。金融機関との新たな関係や、寄付を集める視点も得ることができました。

門脇 真斗さん
NPO法人Since
理事
〔WILL2024支援先〕

Voice
トレーニーの声



支援先とのやりとりを通して解決したい社会課題が明らかになるなど、支援先が自らの価値に気づいていくプロセスは、ソーシャルビジネスを理解する上で有益で、伴走支援のあり方を考える貴重な機会となりました。

江端 里栄さん
新潟県労働金庫 営業推進部
地域共生推進室 上席調査役
〔WILL2022トレーニー〕

『変化の法則』や『ロジックモデル』等の作成を通して、ソーシャルビジネスの目的を整理し、事業に落とし込む方法を学びました。また、事業者の側から社会課題を知ることができる経験も、WILLの大きな価値だと感じました。

俣野 亮太さん
コミュニティ・バンク京信 北大路支店 営業課長
〔WILL2023トレーニー〕

「社会を変える」計画づくりを通して、ソーシャルビジネスの本質や必要な資金を理解できるようになり、企業への視野が広がりました。融資に加え、寄付やクラウドファンディング等、提案の幅も広がったと感じています。

石神 直矢さん
あかぎ信用組合 業務部 代理
〔WILL2024トレーニー〕

特集：“支援できる人”を育て、“支援し続ける組織”をつくる ～JPBVソーシャルビジネス支援プログラム「WILL」への参画～

伴走支援2

“志金”調達計画を提案する

伴走支援の後半は、前半で作成した「社会を変える」計画を、誰にどうやって応援してもらうかを検討するために、ビジネスの世界でも活用される「ペルソナシート」や「ドナーピラミッド」等を作成し、潜在的な寄付者が寄付に至るまでのストーリーを描きます。

それらを踏まえ、WILL終了後のアクションプランとスケジュール案を盛り込んだ“志金”調達計画を作成し、「成果報告会」で支援先に提案します。

伴走支援スケジュール（後半）

- 4か月目 定例会議（月2回）
5か月目 定例会議（月2回）
6か月目 成果報告会《一般公開イベント》
振り返り会&懇親会

4 ペルソナシート（一例）

Table with personal information: 名前, 年齢, 家族構成, 職業, 趣味, プロフィール, ストーリー, 情報収集, ストーリー

5 ドナーピラミッド（一例）



人材育成・交流

「スクール」の開催

2024年度は第1回のスクールでホスト役を務めるパートナー会員を決める等、2025年度の開催に向けた準備や企画の検討を行いました。

「ラボ」の開催

2024年度は準備期間とし、2025年度から開催する予定です。

地域金融機関における「組織的」「継続的」ソーシャルビジネス支援を定着させるためには、本部や営業店の役職員が同じ志を持つ他の金融機関の役職員とつながり、いつかはやってくるリーダーの交代に備えることが重要です。

SBCは、ソーシャルビジネス支援を志す地域金融機関の役職員が学び合い、支え合い、刺激し合って、各金融機関の取り組みを進める「ソーシャルバンカー」を育成しています。

「JPBVソーシャルビジネス支援プログラム『WILL』2025 @オンライン」の共催

金融機関等の役職員が半年間、ソーシャルビジネスを伴走支援するプログラムである「WILL」を、2025年度にJPBVと共催することを決定し、参加金融機関等を募集しました。

※「WILL」については3～7ページをご覧ください。

融資審査等サポート（パートナー会員のみ）

ソーシャルビジネス支援に挑む金融機関の多くは国内外問わず、外部有識者の力を借りて融資審査等を行っています。続々と生じる社会課題に対応するためには、「社会とともに」取り組むことが必要です。

調査・啓発・提言

「分科会」の開催

分科会・第1回@オンライン『社会とともに』審査する融資
第1回のテーマは、「『社会とともに』審査する融資」。ソーシャルビジネスへの融資の審査を外部有識者とともに進めている日本の金融機関が、何を大切にどんな取り組みを重ねてきたかを伺い、参加者同士も話し合うフォーラム形式のトークセッションを行いました。

地域金融機関によるソーシャルビジネス支援を日本各地に広げるには、ソーシャルビジネス事業者の意識変革も不可欠です。各会員の取り組みや実績等を調査し、金融機関は「交渉相手」ではなく「相談相手」であることをお伝えする、ソーシャルビジネス向けの啓発活動や提言等も進めています。

開催日時：2025年3月13日（木）15:00～17:00 参加申込者：99名

参加申込金融機関等（50音順 / 敬称略）：

- 愛知県信用農業協同組合連合会、あかぎ信用組合、SBI新生銀行、神奈川銀行、九州労働金庫、群馬銀行、コミュニティ・バンク京信、しずおかフィナンシャルグループ、西武信用金庫、全国労働金庫協会、玉島信用金庫、東北労働金庫、栃木銀行、新潟県労働金庫、日本政策金融公庫、北海道労働金庫、三菱UFJ信託銀行

事例紹介：「社会とともに」審査する融資

- 西武信用金庫「地域・社会課題解決ビジネス応援融資『S-wish』」
新潟県労働金庫「NPO応援ローン」

「会員アンケート」の実施

2025年度に実施する会員アンケートの準備を行いました。アンケートでは、会員のソーシャルビジネス支援に関する実績等を収集します。

『年次報告書』の発行

初年度のため報告書の発行はありませんでした。

Voice 主催者の声

4年間の成果報告会参加申込者数 490名

平均満足度 9.3点 (10点満点)

とあるバンカーと先日話した時、「ソーシャルビジネス支援の大切さって、WILLに参加してやっとわかったんだよね。だから組織であきらめずにやり続けたい」って言葉をもらいました。WILLが人と組織を変える力を持つと確信した瞬間でした。

江上 広行さん
一般社団法人 価値を大切に
金融実践者の会 (JPBV) 代表理事



Voice 協力先の声

4年間のファンドレイザー数 13名

平均満足度 80.4点 (100点満点)

ファンドレイジング・スクール修了生にとって、WILLは学びを実践につなげる絶好の場。現場での挑戦が自信と成長につながり、多くの喜びの声が寄せられています。

岩元 暁子さん
認定NPO法人 日本ファンドレイジング協会 ディレクター



Voice WILL2025 参加金融機関の声

WILLに参加した目的は、「サステナブル目標の醸成」です。地域の持続可能性確保に向けて、社会課題解決に向けて行動しているソーシャルビジネス事業者の取り組みに触れ、理解した上で、金融包摂の観点から地域金融のあり方を考えることにあります。

半田 徹郎さん
株式会社栃木銀行 人事部 調査役



ソーシャルビジネスを支援できる職員育成や情報収集。本部職員として外部とのネットワーク作り。また数多い議論の場を通してファンリテーション能力やプレゼン能力の向上を期待しております。

佐藤 陽介さん
西武信用金庫 地域協創部 部長



当金庫は、ソーシャルキャピタル（社会関係資本）を活かした多様な社会的課題解決に取り組んでいます。WILLを通してソーシャルビジネスの目利き力や資金調達等を学び、日本の未来におけるソーシャルバンク創出に備えたいと考えています。

青江 晋芳さん
玉島信用金庫 経営企画部 部長



2024年度 SBC パートナー会員による ソーシャルビジネス 支援事例

ソーシャルバンク・コミュニティでは、会員によるソーシャルビジネス支援の現状を把握するため、毎年度、融資実績や支援事例等に関するアンケートを実施します。

初年度となる2024年度は、アンケートを通じて寄せられた各パートナー会員（コミュニティ・バンク京信、西武信用金庫、玉島信用金庫）の取り組みの中から、支援先の成長や社会的インパクトの拡大につながった実践事例をご紹介します。



コミュニティ・バンク京信

SEIBU
西武信用金庫

玉島信用金庫

Report 01

老舗飴菓子店の復活

コミュニティ・バンク
京信



Background 支援の背景と経緯

代表者(当社7代目)が京都商工会議所の紹介で、当金庫が運営する共創施設「QUESTION」の事業承継イベントに参加。

実家の閉店した菓子店を復活させたいという想いにQUESTIONのコミュニティマネージャーが共感し、課題を伺った上で支援を開始しました。

Support 具体的な支援内容

QUESTIONのコミュニティマネージャー、営業店職員、本部職員が協力して、事業計画策定及び非財務面と財務面から支援しました。

また、販売する商品の開発サポートや物品のテスト販売などにも支援を行いました。

Outcome 支援の成果

閉店していた地元老舗店が復活したことにより地元の方が大いに喜ばれ、また、町家としての景観も残ることとなりました。



Report 02

ロジックモデルの作成による 長期成果の設定

西武信用金庫

Background 支援の背景と経緯

全国に2万以上ある障がい児向け通所支援事業所のうち、医療の発展とともに増加する医療的ケアや重い障がいのある子どもを対象とした事業所は約6%。そうした子どもたちに欠かれない看護師や理学療法士などの専門職に存在が知られておらず、慢性的な人材不足に悩んでいたため、人材確保に必要な採用費や定着までの運営費が必要でした。

Support 具体的な支援内容

2023年5月から募集を開始した、地域・社会課題解決ビジネス応援融資「S-wish(スイッチュ)」で融資を行い、採用等に必要な資金をサポートしました。また、組織内外で団体が何をめざすのかを共有できるように、2025年



1月～3月に計5回の会議を開催し、ビジョン達成に向けたロードマップである「ロジックモデル」の作成を支援しました。

Outcome 支援の成果

ロジックモデルを作成したことで、創業15周年を迎える2023年度までに達成したい長期成果が明らかになりました。さっそく役員間で共有され、職員の採用や育成にも活用する予定です。また、長期成果の達成に向け、どの事業にどの財源を組み合わせる必要があるかも整理され、2025年度からは寄付を継続的に募る戦略構築にも着手し始めました。



保護者が設立した、経験の浅い未熟な法人ですが、資金面だけでなく、めざすものや大切にしていることを可視化できたことで、利用者や職員の安心と信頼につながったと思います。

大高 美和さん
NPO法人ゆめのめ 理事長

Report 03

観光農園とカフェの開業で 福祉と地域をつなぐ

玉島信用金庫



Background 支援の背景と経緯

岡山県倉敷市を拠点とする社会福祉法人は、就労継続支援B型事業として、一般企業での就労が困難な障がい者の方を受け入れ、同法人が運営する飲食店で従事するなど、障がい者の雇用確保に注力してきました。

そんな中、コロナ禍により売上が減少。施設利用者の作業もパターン化していました。

そこで、新たな収益事業の確保と利用者の適性を活かしたサービス拡大のため、観光農園への参入とそこで採れた食材を活かしたカフェ開店について当金庫にご相談いただきました。

Support 具体的な支援内容

当金庫が行った支援により観光農園開業のための補助金を受領。設備資金についても融資を通じてサポートしました。

Outcome 支援の成果

計画に基づき、観光農園およびカフェを開業することができ、地域住民を中心に多くのお客さまでにぎわいを見せています。これにより、施設利用者にとって新たな就労機会を創出できただけでなく、地域社会とのつながりも深まっています。



施設利用者の就労機会創出と地域の活性化に貢献できたことをうれしく思います。今後も地域の社会的課題解決に向け尽力してまいります。

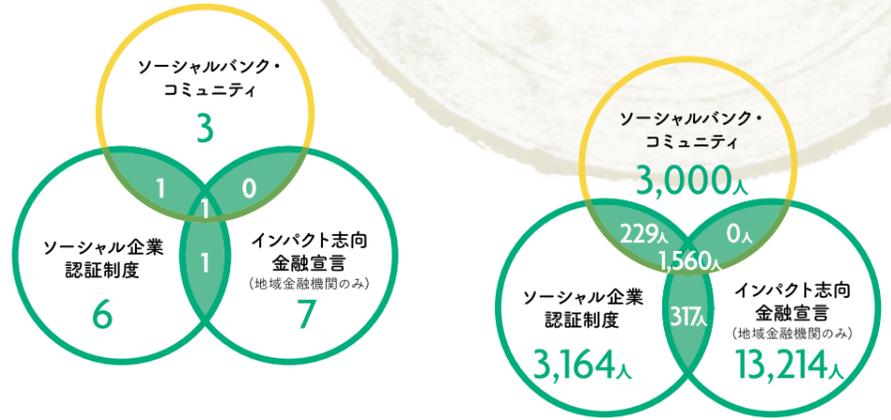
鈴木 芳郎さん
玉島信用金庫 鶴形支店 支店長

	ソーシャル企業 認証制度 2021年4月発足	インパクト志向 金融宣言 2021年11月発足	ソーシャルバンク・ コミュニティ 2024年9月発足
参加機関数	6	7	3
事務局	ソーシャル企業認証機構	社会変革推進財団 (地域金融機関のみ)	すくらむ、めぐる、リトルパーク
主な対象	ローカルビジネス	インパクトビジネス	ソーシャルビジネス
テーマ	中小企業のソーシャル化	企業のインパクト化	民間公益活動団体の事業化

収入		支出	
会費	840,000	業務委託費	1,146,127
事業収入	378,200	旅費交通費	9,060
雑収入	34	会議費	7,333
合計	1,218,234 (単位：円)	通信費	5,500
		支払手数料	24,039
		次期繰越金	26,175
		合計	1,218,234 (単位：円)

2024年度の主な収入は、会員からの会費とイベントの参加費でした。
 主な支出は、事務局の運営費とホームページの開設費でした。初年度の決算は若干の黒字となりました。

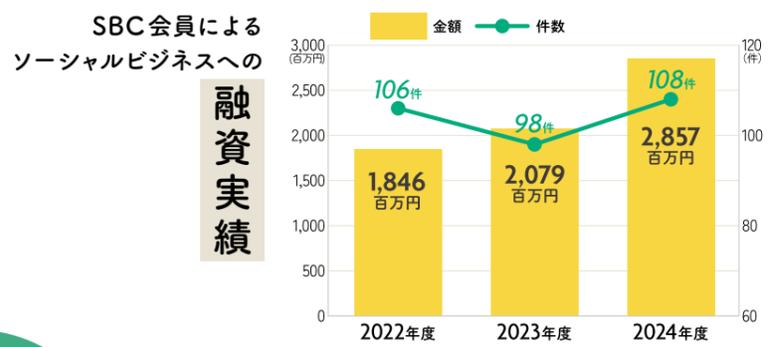
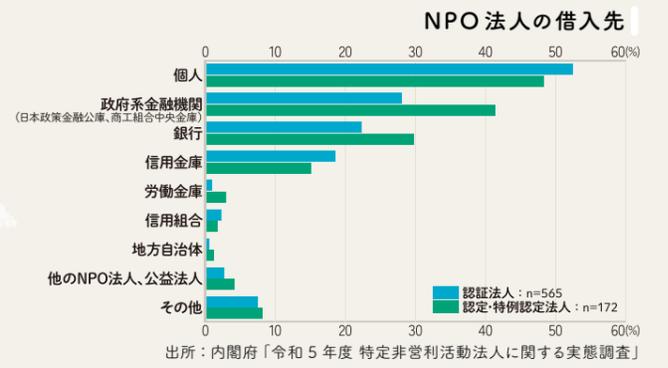
参加機関数



役員員数

Column

SBC事務局コラム
**ソーシャルビジネスに、
 もっと地域金融の力を。**



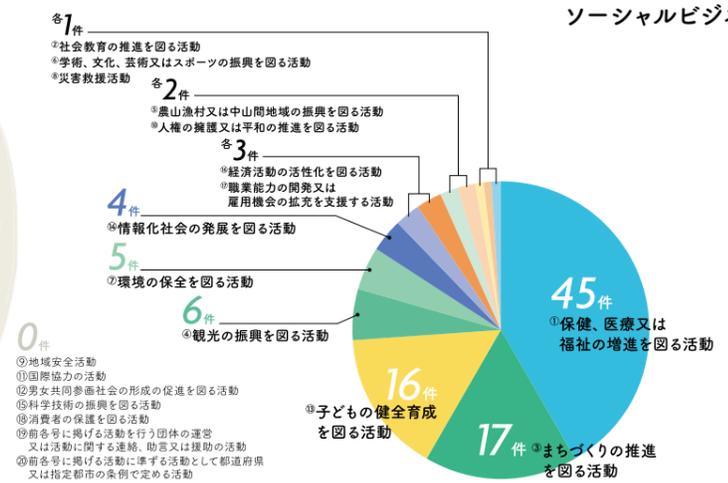
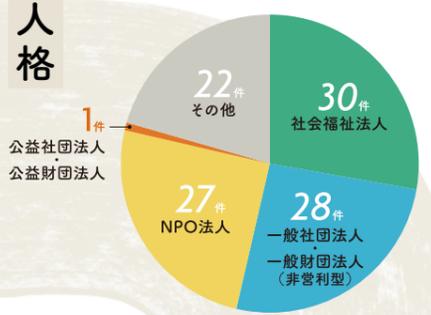
融資実績

2024年度に融資した
 ソーシャルビジネスの

活動分野

2024年度に融資した
 ソーシャルビジネスの

法人格



日本政策金融公庫
 「ソーシャルビジネス関連融資実績」



内閣府が2023年度に実施した調査では、ソーシャルビジネス(SB)の代表格であるNPO法人の借入先は「個人」が最も多く、約50%に達しています。2番目に多い「政府系金融機関」の日本政策金融公庫は近年、着実にSB関連融資実績を伸ばし、2024年度は17,369件(前年度比105.2%)、1,153億円(前年度比94.4%)となっています。

金融機関をもっともっと活用してもらいたい。そんな思いでSBCは、全国47都道府県に暮らす338名の発起人とともに発足しました。地域金融の可能性を信じ、これからもソーシャルバンカーを勇気づけていきたいと思っています。



木村真樹
 ソーシャルバンク・コミュニティ
 事務局スタッフ
 / 合同会社めぐる 代表

SBC事務局ブログの「マンスリーレポート」でも、木村は同様のコラムを執筆しています。ぜひご覧ください。
[事務局ブログはこちら](#)



多様な価値観を受け入れ、多角的な視点を持って仕事を進められる、人間としての器の成長。

垂直的成長

水平的成長

ソーシャルビジネス支援に関する知識やスキル、専門性等の獲得。

お問い合わせは以下よりどうぞ

ホームページ
お問い合わせページを開く



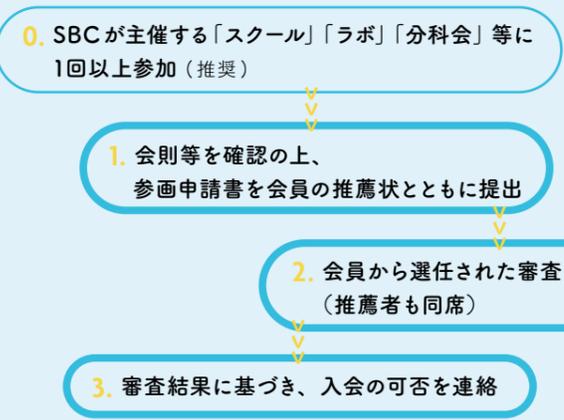
SBCへの入会を検討している

金融機関の方

SBCはさまざまなアクションを通して、会員である金融機関の役職員に対し、成人発達理論における「水平的成長」と「垂直的成長」を促します。

SBC会員には、「パートナー会員」と「メンバー会員」の2つがあります。ご関心のある金融機関の方は、事務局までお気軽にご相談ください。

SBC会員になるためのステップ



SBC会員の金融機関とつながりたい

ソーシャルビジネス事業者の方

地域の社会課題解決は、SBC会員等のソーシャルビジネス支援を志す地域金融機関と連携することで加速できると、SBCでは考えています。

地元でSBC会員の金融機関が存在しない場合も、何かしらお役に立てることがあるかもしれません。お気軽にお問い合わせください。

Voice 新規入会者の声 (メンバー会員)

2025年度入会

一般社団法人 全国労働金庫協会

当会は、労働金庫の中央機関です。労働金庫では、2000年にNPO法人向け融資を関東・関西で初めて実行し、その後全国へ拡大しましたが、その取扱いは限定的です。社会課題の解決に向けNPO法人を金融面等で支えることは、労業態が目指す役割発揮でありながら、事業性融資に対する目利き・勤どころが脆弱で、事業者との接点作りも不十分な状況です。こうした課題克服に向け、SBC会員の皆様のご支援を賜り、事業性融資を担える人材育成に努める所存です。

蒲原 俊之さん
一般社団法人全国労働金庫協会
政策調査部 次長



2025年度活動計画

人材育成・交流

○「スクール」の開催*

初開催の2025年度は、パートナー会員のコミュニティ・バンク京信とともに、U理論に基づくワークショップを開催する予定です。「社会のこと」「自分のこと」として語り合えるソーシャルバンカーたちと出会い、これからの自分のあり方を問い直す機会を提供します。

※参加費：パートナー会員の役職員は無料、メンバー会員の役職員は割引

○「ラボ」の開催*

ホストの各パートナー会員がSBCと共催し、年1回企画運営します。計8時間程度のオンライン開催を想定しています。

※参加費：会員の役職員は無料

○「JPBV ソーシャルビジネス支援プログラム『WILL』2025 @オンライン」の共催*

JPBVソーシャルビジネス支援分科会と共催します。WILLにつきましては、3～7ページの特集をお読みください。

※参加費：パートナー会員の役職員は無料、メンバー会員の役職員は割引



ソーシャルビジネス支援に挑む金融機関の多くは国内外問わず、外部有識者の力を借りて融資審査等を行っています。今年度も引き続き、パートナー会員からの要請に応じて、ソーシャルビジネス支援の経験豊富な事務局スタッフが、審査等に関する助言を行います。

事務局スタッフ

- 久保 匠 (ソーシャルセクターパートナー すくらむ)
- 木村 真樹 (合同会社めぐる)
- 古里 圭史 (株式会社リトルバンク)

融資審査等サポート (パートナー会員のみ)

調査・啓発・提言

○「分科会」の開催*

日本のソーシャルバンキングを推進する上で、中長期の検討が必要なテーマを取り上げます。2時間程度のオンライン開催を年4回想定しています。

※参加費：会員は無料

○「会員アンケート」の実施

会員のソーシャルビジネス支援に関する実績等を収集し、『年次報告書』にまとめます。

○『年次報告書』の発行

各年度の印象的な取り組みを紹介する特集や、会員アンケート結果等を掲載します。

SBCの動きを知るには

SNSをフォロー



事務局ブログを読む



メールニュースに登録

最新の取り組みや活動レポートなどをお送りします



Voice

<https://social-bank.community/>



Annual Report 2024 - 2025

ソーシャルバンク・コミュニティ
2024年度 年次報告書

ソーシャルバンク・コミュニティ
2025年7月29日 発行